

聖なる熱心さにより

(ルカ11・5〜10)

一、祈りについての教え

ルカの福音書11章は、1節から13節までが、主イエスが語られた祈りについての教えです。2節の途中から4節までは、いわゆる「主の祈り」として、私共が唱えている祈りです。そして、5節よりたとえ話が始まります。ここで語られているたとえは、主イエスが弟子たちに、祈りについて教えるために語られた話です。この方向性を弁えて読むならば、自ずと意味が見えてまいります。

5節、6節をご覧ください。〈また、イエスはこう言われた。『あなたがたのうちのだれかに友だちがいて、その人のところに真夜中に行き、次のように言ったとします。『友よ、パンを三つ貸してくれないか。友人が旅の途中、私のところに来たのだが、出してやるものがないのだ。』』とあります。

祈りについての教えですから、〈あなたがたのうちのだれかに友だちがいて、その人のところに真夜中に行き、次のように言ったとします。〉の〈友だち〉は「神」のことです。

続いて、〈あなたがたのうちのだれかに友だちがいて、その人のところに真夜中に行き、次のように言ったとします。〉の〈友だち〉は「神」のことです。

す。さらに、〈友よ、パンを三つ貸してくれないか。友人が旅の途中、私のところに来たのだが、出してやるものがないのだ。』を「ご覧ください。これは弟子たちの、そして私たちの祈りです。

友人が訪ねて来たのに、友人に出してあげられるパンがないとは、次のような場面を考えてみたらいかげんかでしょうか。「友人がたいへんな悩みを抱えて訪ねてきた。しかし今の自分には友人の悩みを解決できる力もなければ知恵もない」という状況です。そういう時に、皆様だったらどうしますか？ 神を知っているなら、祈りますよね。「神さま。私は相談者の求めに答えることができませぬ。力をください。知恵をください」と。それが、〈友よ、パンを三つ貸してくれないか。友人が旅の途中、私のところに来たのだが、出してやるものがないのだ。』と、神に祈り求めている状況です。

あるいは、次のようなケースも、あることでしょうか。それは、どうしても受け入れることのできない人が現れた場合です。そのような時に、「聖書には『あなたの隣人を自分自身のように愛せよ』と書いてある。ですが、神さま。どうしても、あの人を受け入れることができないのです。あの人を愛する愛をください。寛容な心をお与えください」と祈るのではないのでしょうか。それが、〈友よ、パンを三つ貸してくれないか。友人

が旅の途中、私のところに来たのだが、出してやるものがないのだ。』と、神に向かつて祈り求めている状況です。

二、しつこく祈り求める

続いて、7節をご覧ください。〈すると、その友だちは家の中からこう答えるでしょう。『面倒をかけないでほしいもつ戸を閉めてしまったし、子どもたちも私と一緒に床に入っている。起きて、何かをあげることはできない。』とあります。「パンを貸してくれ」と頼まれた友人は、たとえ話においては「神」になります。

8節をご覧ください。〈あなたがたに

言います。この人は、友だちだからというだけでは、起きて何かをあげることはしないでしよう。しかし、友だちのしつこさのゆえなら起き上がり、必要なものを何でもあげるでしょう。〉とあります。「こは、どういう意味なのでしょう。主イエスが語られた「しつこさ（アナイディア）」という言葉は、「恥じを知らないしつこさ、厚かましき、ずうずうしさ」という意味です。ですから、あまり良い意味ではないです。否、悪い意味の言葉です。いずれにしても、「神に向かつて、しつこく祈りなさい。しつこい祈りは答えられる」と、主イエスが祈りについて教えられたという意味になります。

では、どのよう、しつこく祈る祈り

が良いのでしょうか。こういう祈りはどうでしょうか。「神さま、今たいへんな問題を抱えておられる方から相談を受けています。どうか、良い判断をすることができるよう、知恵をお与えください」と「しつこく」祈るのはいかがでしょうか。良いですね。

あるいは、次のような場合はいかがでしょうか。「私には、人を愛し、人を受け入れることができません。どうか、私に人を愛する愛をください。寛容な心をください」と「しつこく」祈るのはいかがでしょうか。良いですね。

三、求めなさい

元の箇所に戻りまして、9節、10節をご覧ください。〈ですから、あなたがたに言います。求めなさい。そうすれば与えられます。探さなさい。そうすれば見出します。たたきなさい。そうすれば開かれます。だれでも、求める者は手に入れ、探さる者は見出し、たたく者には開かれます。〉とあります。

幾度となく聞いてきた聖句ですが、主イエスが語られた祈りについての教えである「必要なことは、しつこく祈り求めなさい」という流れで読みますと、それまでとは異なる響きに聞こえてまいります。そうなりましたら、主イエスが祈りについてじきじきに教えられたの教えを聞き、それに近づいたと言えます。